

[科目名] 自分知の探求				[単位数] 2単位	[科目区分] 専門科目 基礎科目			
[担当者] 小寺 将太				[オフィス・アワー] 時間:随時(初回時に報告する) 場所:メールにて(tsumugu@cosmoltd.co.jp)		[授業の方法] 講義・演習		
[科目の概要]								
<p>近年、日本における地域社会では、人口減少問題が大きな課題となっている。人口減少が起因し、地域内では生活関連サービスの縮小、税収入減少による行政サービスの低下、地域公共交通の縮小、空き家・空き店舗・耕作放棄地問題、地域コミュニティの衰退が生じている。青森県も同様に、人口減少問題が大きな地域社会における課題となり、複合的な課題が起きている。</p> <p>このような課題にアプローチするため、各地では「地方創生」の動きが加速化している。特に地域コミュニティの維持・形成を目的とし、各地域では「地域づくり」「地域おこし」といった様々な取り組みが行われている。青森県では、人口減少問題にアプローチする施策として、「地域共生社会の実現」、「関係人口・移住定住施策」等、様々な「地方創生」に係るプロジェクトが行われている。</p> <p>本講義では、「地方創生」に焦点をあて、地方創生の歴史、地域社会の現状、地方創生に係る活動を体系的に学ぶ。また、地域課題にアプローチすることができる「地域創生人材」の育成を目的とし、「社会起業設計」をもとに、地域課題に対する施策を考えていく。</p>								
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか]								
<p>日本の地域社会全体で、人口減少問題が起き、地域コミュニティの衰退が起きている。学生自身の居住地、出身地においても同様である。人口減少問題が起因として起こる複合的な課題に対して、アプローチすることができる「地域創生人材」の育成が重要である。全国各地で行われている地方創生にかかわる事例を学び、地域課題の分析・事例研究を取り組むことは今後の社会における活動でも大きく役立つと考える。また、実践知として地域課題の施策提案を行うスキルを体験することで、地域課題のみならず、社会課題や企業課題等、ミクロ・マクロな視点における課題解決能力を身につけることができると考えている。将来的に、公務員や民間企業、NPO 等で働く上で、必要な視座を学ぶことができるだろう。</p>								
[科目の到達目標]								
<p>本講義は3つのステップで進める。1つ目は地方創生が提唱された目的・歴史・起因して起こる地域課題についてだ。地方創生がなぜ提唱されているのか等、複合的な課題が起きる本質を様々な話題を通して探ります。2つ目は、全国各地や青森県内で取り組んでいる地方創生に係る取り組みを学ぶ。ここでは、ミクロ・マクロな視点で様々な取り組みを事例研究し、事例の探し方等を学んでいく。</p> <p>3つ目は、演習形式で「社会起業設計」に基づく地域課題解決提案である。ここでは、上記の2つのステップを通し、実践知として、地域課題を調査分析し、様々なワークショップ手法を体験し、施策を考えていく流れを学ぶ。このような3つのステップを経験し、地域社会が形成される上での課題や施策を体系的に実践知として学び、課題に対してアプローチする手法を学ぶことを目標とする。そこから、地域社会における自身の役割やチーム行動を学んでいく</p>								
[ディプロマ・ポリシー (DP)との関係]								
学部				学科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
				○	○			

<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>特になし</p>	
<p>〔教科書〕</p> <p>特になし</p>	
<p>〔指定図書〕</p> <p>特になし</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>特になし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義時にリフレクションペーパーに授業内で調べたことや感想を記入して提出し、評価する。 ・講義内で行うグループワークにおける活動の様子や最終発表資料によって、評価する。 ・講義内で課題レポート(個人)を課し評価する <p>上記の3つの視点をもとに総合的に評価を決定する。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から可能な限り、地元新聞をもとに地方創生に係る取り組みについて目を通してみてください。 ・本講義は、講義と演習形式を掛け合わせて実施しますので、積極的にグループ活動時にコミュニケーションを取ってください。 ・課題研究等はパソコン等を活用することがありますので、スマートフォンやパソコンを持参してください。 	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>講師プロフィール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人 tsumugu 代表理事 ・東通村商工会 会長 ・青森生涯学習審議会 委員 ・青森県総合計画審議会 委員 ・東通村政策アドバイザー 	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション</p> <p>内 容: 授業の概要等のガイダンス及び講義及び演習の疑似体験(講義の流れを把握する)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地方創生概論①～日本の地域社会が抱える課題～</p> <p>内 容: 地域社会が抱える課題や地方創生が提唱されるまでの歴史を学ぶ</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地方創生概論②～地域課題の分析～</p> <p>内 容: 地域課題を把握し分析する手法を学ぶ。具体的には RESAS を活用して、様々な定量的な課題を把握する</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本各地における地方創生①</p> <p>内 容: 日本における「まち・ひと・しごと総合戦略」をもとに全国の自治体の優良な事例を学ぶ。具体的には地域ブランディング、移住定住、子育て環境等をキーワードとする。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本各地における地方創生②</p> <p>内 容: 日本における「まち・ひと・しごと総合戦略」をもとに全国の自治体の優良な事例を学ぶ。具体的には共生社会、SDGs、多様な人材活用をキーワードとする。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本各地における地方創生③</p> <p>内 容: 日本における民間が地方創生に取り組む事例を学ぶ。産学官連携の重要性や中間支援組織の必要性について学ぶ。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県における地域課題について</p> <p>内 容: 青森県が抱える地域課題を定量的・定性的に分析し学ぶ。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県における地方創生①</p> <p>内 容: 青森県の「まち・ひと・しごと総合戦略」をもとに取り組んでいる施策を学ぶ。具体的には、青森県型地域共生社会の実現について提示する。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県における地方創生②</p> <p>内 容: 内 容: 青森県の「まち・ひと・しごと総合戦略」をもとに取り組んでいる施策を学ぶ。具体的には、青森県における関係人口・移住定住施策について提示する。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県における地方創生③</p> <p>内 容: 内 容: 青森県の「まち・ひと・しごと総合戦略」をもとに取り組んでいる施策を学ぶ。具体的には、青森県内で取り組まれている産学官連携について提示する。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): アイデアソン～地域課題を2つの手法で分析～</p> <p>内 容: コミュニティの合意形成における2つのワークショップ手法を学び、青森県内の地域課題を分析する(グループワーク)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): ソーシャル・ビジネスの手法で課題解決提案①</p> <p>内 容: 社会企業・ソーシャルビジネスの設計手法を活用して、設定した地域課題をもとに、解決策を考える。具体的には、定量的に施策を考える(グループワーク)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): ソーシャル・ビジネスの手法で課題解決提案②</p> <p>内 容: 社会企業・ソーシャルビジネスの設計手法を活用して、設定した地域課題をもとに、解決策を考える。具体的には、マトリックス・マッピング手法を活用して、施策を集約し具現化する(グループワーク)</p>

第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ソーシャル・ビジネスの手法で課題解決提案③</p> <p>内 容:社会企業・ソーシャルビジネスの設計手法を活用して、設定した地域課題をもとに、解決策を考える。具体的には、企画書を作成し、プレゼン資料を完成させる。また、財務的な視点を学ぶ(グループワーク)</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ソーシャル・ビジネスの手法で課題解決提案④</p> <p>内 容:講義のまとめとして、プレゼンを実施する。また、講義の振り返りを実施する。</p>
試 験	実施しない